

平成20年 2月

徳安成郎 学位論文審査要旨

主査	林	一彦
副主査	井藤	久雄
同	池口	正英

主論文

Minichromosome maintenance 2 (MCM2) immunoreactivity in stage III human gastric carcinoma: clinicopathological significance

(Stage III 胃癌におけるMCM2の免疫組織化学的発現：臨床病理学的意義)

(著者：徳安成郎、庄盛浩平、西原圭祐、川口廣樹、藤岡真治、山家健作、池口正英、井藤久雄)

平成20年 Gastric Cancer 掲載予定

審 査 結 果 の 要 旨

本研究はヒト胃癌切除標本を用いて、MCM2の発現と臨床病理学的項目との比較検討を行ったものである。その結果、MCM2とKi-67の標識率は有意に相関していたが、臨床病理学的所見、p53の標識率との間に関連はなかった。予後との関連を検討した結果、腸型胃癌では、Ki-67、MCM2の標識率と予後とに有意な相関関係はなかった。他方、びまん型胃癌では、MCM高標識群が低標識群と比較して、有意に予後が不良であった。多変量解析では、MCM2標識率は独立した予後因子であることが示された。本論文の内容は、MCM2がステージⅢびまん型胃癌において、有用な予後因子であることを示唆するものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。